

岐阜県感染症発生動向調査（2018年第9週～第13週分、3月分）コメント

平成30年4月18日

月番：馬場 尚志

<全数把握対象疾患>

- 結核は、発症患者および潜在性結核感染症のいずれも前年同期までの累計と比較し報告数が減少しているが、毎週コンスタントに報告例がある。
- 梅毒も毎週報告されており、報告数はほぼ前年同様である。
- 侵襲性肺炎球菌感染症は、この期間に5例報告されている。本年の累計報告数は16例と前年同期と比べ7例多くなっている（対前年比177.8）。
- 本年より全数把握対象疾患となった百日咳は、この期間に6例報告されている。
- 現時点で岐阜県内からの報告はないが、第13週（3月26日～4月1日）に沖縄県で3例の麻疹患者が報告されている（いずれも25歳以上の成人）。これまでに沖縄県内での感染拡大のほか、同県に旅行歴のある男性が愛知県で診断されたと公表されている。

<定点把握対象疾患>

- インフルエンザは、ようやく例年並みの報告数にまで減少した。
- 西濃圏域を中心にロタウイルスによる胃腸炎が増加している。

- ・麻疹について、隣県から報告されていることに加え、大型連休も控えており、県民、特に旅行者等への情報提供・啓発が重要であるとともに、医療者に対する注意喚起が必要である。
- ・結核および梅毒は、毎週コンスタントに報告があり、引き続き県民および医療者への注意喚起・啓発が必要である。
- ・百日咳については、全国の報告例などを含め一定数の報告が蓄積されたところで、年齢やワクチン接種歴など発症者の背景を解析し、県民および医療者に情報提供することが期待される。
- ・ロタウイルス感染症は、この時期が流行期にあたるため、県民への注意喚起および予防に関する情報提供が望まれる。
- ・県内のインフルエンザ警報は3月30日に解除されたが、現在も一定数の報告がある。また、他の感染症の予防の点からも、通年で手洗い・咳エチケットの遵守に心掛けるよう呼び掛けが必要である。